

夢窓幼稚園通信第83号

2015年 2月 27日

今日電車に乗ったら優先席の案内文の下に英文も書かれていて、...きっと今まで何度も目にしていたのですが...はじめて読んでみました。とても優しさの感じられる英語で、例えば"physically handicapped"ではなく"physically challenged"と書かれてあり、また赤ちゃんがお腹にいるお母さんのことを"expectant mothers"と表現されていました。英語があまり得意ではないのですが、美術館や史跡案内など気になるもののタイトル等を確認するとき、日本語の後にあらためて英語表記を読むことにしていて、かえって英語の方が妙にうなづけることがあります。芸術作品だからなのか、普段使わないようなはじめて目にする難しい日本語もあり、英語で示されている方がイメージしやすいときがあるのかもしれません。また、それとは別にいつも自分が周囲の世界を受けとめる、その仕方・在り方どこか傾向があり(それがそれぞれの人のしきも作っているのでしょうか)偏りをも作っていて、時には別の尺度に身を置くことも大切であるような気がするのです。素通りしてしまうものの中に、あらためての輝きを見出せるかもしれません。

電車の表示の話に戻りますが、「expectant mothers」の言葉が目にとまり、心が魅きつけられました。

妊娠している方をよく「pregnant woman」と言いますが、このpregnantには、「妊娠した」の他に「豊富な」とか「含蓄のある」、「意味深い」などの意味があります。

有名な詩人であり自然科学者だったゲーテは、小さな種の中にはその後芽を出し葉を広げ実を結ぶ、すべての過程もいのちあふれるかもこめられていて、そこには「pregnantな点=生産的原点があるのだ」と言っています。

目に見える種は植物のことだけではなく、何かの取り組みや企画でも、精神的なアイデアでも、人の夢でも、人生そのものでも、その含蓄ある出発の一点があるかどうかにかかっているのではないのでしょうか。

豊かで意味深い(pregnant)赤ちゃんをお腹に宿しているお母さん。その赤ちゃんが生まれてくるのを、たのしみにして待ち望む(expectant)お母さんと表現する、その言い回しが、とても素敵だと思いました。

いよいよ今年度さいごの月 3月を迎えます。

60周年 還暦は、暦をひとめぐりして生まれ変わり、また新しい一歩を踏み出すという意味でもあります。

子どもたちは、それぞれ、1年生・次のバッチへと歩みを進めます。大人も次の目標や夢に向けて新しい春を迎えます。

教職員は、ささやかなものですが60周年を記念した冊子作りを進め、そのことを通して、次の夢窓幼稚園の環境をつむぎ出していくときに、何が大切なのかを確かめているところです。

子どもたち、大人たち一人ひとりの内に、それぞれとしてのpregnantな確かな種が息づいていることを信じ、新たな生活の中でそれらがゆっくりゆったりと芽を出し生長していくことをたのしみ待ち望みながら、61回目の卒園・進級のときを迎えたいと思います。

園長 升光 泰雄